

審査論文要旨（日本文）

論文提出者氏名： 伊藤 謹民

審査論文

題名： Quantitative evaluation of exudate leakage through adhesive wound dressings
In experimental pig skin model
(豚皮モデルを用いた粘着性創傷被覆材による滲出液の漏出の定量的評価)

著者： Norihito Ito, Dai Shibata, Sayaka Ono, Yukiko Ida, Ryutaro Imai Hajime Matsumura

掲載誌： Journal of Tokyo Medical University (in press, 2016)

(審査論文要旨：日本語論文の場合 1,000 字以内・英語論文の場合 500 words)

【背景と目的】

適切な湿潤環境により創治癒は促進されるが、創周囲の健常皮膚への浸出液の漏れにより周囲が浸軟し治癒の遷延や創の拡大をもたらすことがある。今回我々は、種々の粘着性創傷被覆材を用いて創周囲の皮膚への浸出液の漏れを量的に評価した。

【方法】

ブタの皮膚を用いて 6mm 大の皮膚欠損創を作成し、6 つの異なる粘着性創傷被覆材で創を被覆した。皮膚の後面から 20 μ L または 40 μ L の 1%メチルバイオレット液を 30 分おきに 8 回滴下し皮膚に浸透させた。1 時間静置した後、創周囲への色素の広がりを 2 元化して計測した。

【結果】

被覆材の粘着層のタイプと創周囲への粘着の程度に明らかな差はなく、被覆材による素早く十分な浸出液の吸収により、創周囲への浸出液の漏れと浸軟は防ぐことができた。

【結論】

臨床現場においても、創周囲への浸出液の漏れを防ぎ、浸軟を避けるために、創面を湿潤に保ちつつ浸出液を素早く十分に吸収する被覆材を選ぶべきである。